

8-4-20 道路専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 道路専門委員会の開催

委員会開催回数：10回（4月～1月）

(2) 対外活動

a) RCCM 登録更新教材の更新

「道路」及び「トンネル」について改訂作業を行った。両分野とも、法や基準の改訂に伴う修正、出典や演習問題の整理・調整を実施した。

b) 視察（支部との連携強化）

道路交通技術に関する現地での知見・知識取得や支部との交流を目的とした視察は、昨年度に続き取りやめとした。支部との交流強化や知見・知識の修得は、必要かつ重要課題であり、次年度の開催を前提に検討を進めている。

c) WG 活動

当委員会では、以下の主な5つのWGの活動記録について記述する。

① 設計システム WG

委員会社の若手技術者が集まり、「性能照査型道路計画・設計」に対して、「機能階層型道路ネットワークのためのガイドライン(案)」ブラッシュアップのため事例検討を継続した。

② 品質向上 WG

過年度から継続し、設計ミス防止、品質向上を目指した「品質セミナー」の実施に向けてのエラーの事例集収集、作成及びセミナー講師として参画した。「道路・トンネル」部門は多数受講され、高評価を得た。

③ 勉強会 WG

毎年開催している道路専門委員会セミナーは、講義時期の調整の結果、次年度の5月開催とした。昨年度まではコロナ禍での開催だったため聴講は委員に絞り、後日配信する形態としていたが、今回は協会会員を対象とした会場開催とし、講義内容は後日 JCCA Web 講習システムで配信予定とした。

講義内容は次の通りである。

- 講師：名古屋大学 未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 教授
三輪 富生 様

- 目的：都市内の道路交通における新しい技術や考え方の紹介を通し、自動運転車や都市内の道路交通について理解を深める。

- 背景：近年我が国では、人口減少・少子高齢化が進行し、鉄道やバス路線の廃止・縮小が進んでおり、地域の足であるこれら公共交通の衰退が問題となっている。特に、高齢者の足は公共交通に頼る部分が大きく、これからの足をいかに確保するかが、重要な課題である。この様な状況のなか、自動運転技術等新しい技術の開発が進み、公共交通の持続性が向上することが期待されている。地域の足を確保するため、都市内の道路交通における新しい技術について、より一層の理解を深め、業務に活かせる知識をひろく紹介したいと考える。

④ 対外活動 WG、外部 WG 等への参加

NEXCO 総研や首都高速道路(株)とは歩掛等について、過年度に引続き意見交換を行った。

上記本部活動の他、公共測量や PRISM 運営委員会などの測量関連、社整審道路技術小委員会や土工性能 WG、道路土工性能評価 WG などの道路防災関連についても対応した。

⑤ 無電柱化 WG

無電柱化 WG では、昨年度の継続で、国土交通省 無電柱化推進部会コンサル WG に参加し、低コスト化に向けた技術開発を推進した。

d) CIM・i-Construction への取り組み

国交省、及び国土地理院の活動に参加した。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施するとともに道路、トンネルを取り巻く課題に取り組む。

(道路専門委員会委員長 千田 哲哉)